

写真が語る韓国の「原風景」③

前川 恵 司
(写真・文)

反共の最前線を守った基地の街

北朝鮮は「赤匪」だった。4 万人を越える米軍が韓国を支えていた。安保も予算も。洋公主と言われた「基地の女」は米兵と結婚して海を渡った。洋公主は貴重なドルの稼ぎ手だった。71 年、米軍の削減に人々は韓国を見捨てるのかと嘆いた。それから半世紀。文在寅左派政権は、日本との軋轢を理由に日米韓を結ぶ軍事情報包括保護協定(GSOMIA)破棄を言い出し、米国の対中国政策への協力を渋っている。

最前線の基地の街からほとんどの米軍が去り、ソウルのベッドタウンに代わってモノレールが走る。米兵はもうどこにもいない。

いま在米韓国人は、約 170 万人。約 130 万人の日系人を上回る。外交特別補佐官文正仁の息子はとくに米国に暮らす。話題の曹国前法相、康京和外相の子どもも米国籍だ。韓国指導層子弟の「棄国率」は高く、洋公主がルートとなった在米韓国人社会は、「韓国に幸せはみつからない」と去っていった人々がつくりあげた、究極の勝ち組社会となった。

(まえかわ けいじ・ジャーナリスト)



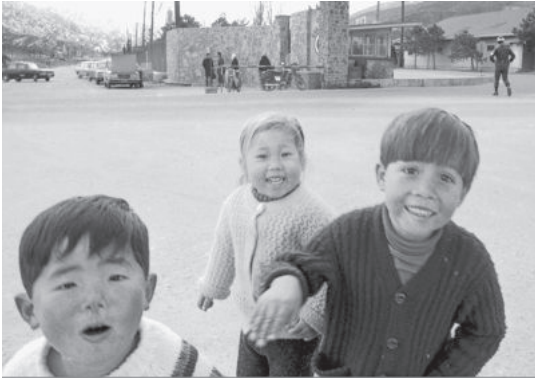
基地の街の昼下がり
子ども以外誰もいない



韓国軍の精鋭部隊



笑顔の看護兵
どこでも米軍ジープが走り回っていた



基地ゲート前で遊ぶ米兵との間の
混血児の子ども



戦場だった村が演習地になった



米兵と共にタクシーに乗り込む「洋公主」



このころの中学生が漢江の奇跡の主役になった



米軍専用バーに出勤する「洋公主」